

# 01 私たちの人となり

## 90年間変わらぬ使命

### 時代の要請に応じて自らを変革してきました。

# 1923~

戦前・戦後の農林水産業の  
資金需要に応じて

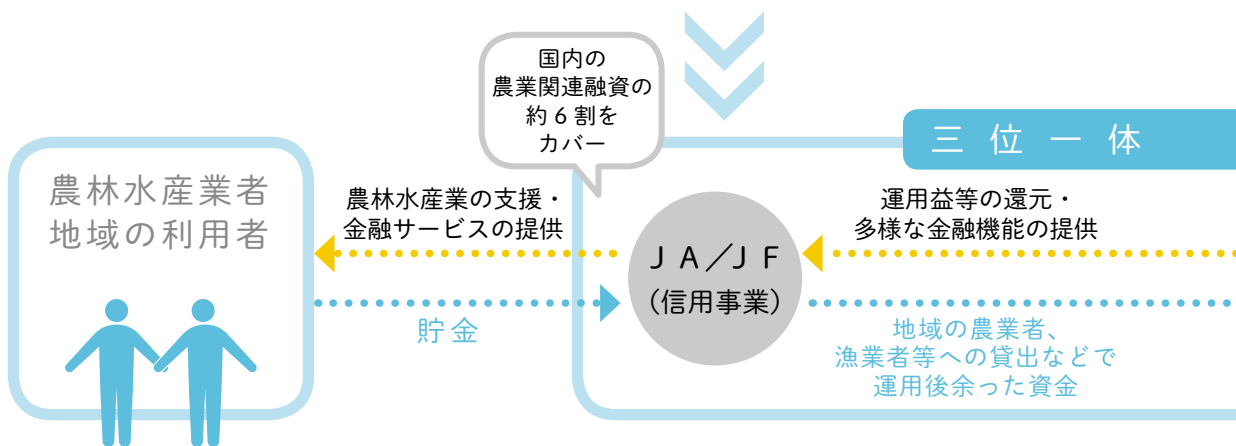


産業組合中央金庫  
として発足



相互扶助の協同組織を通じた  
融資等の金融サービスで生産者を支援

戦前・戦後から高度経済成長期までは、農林水産業に携わる生産者は資金不足の状態にありました。こうしたなか、1923年に設立された私たち農林中央金庫は、「一人は万人のために、万人は一人のために」の相互扶助の精神に基づいて、農林水産業者の協同組織の中央機関として、それぞれの地域の協同組織が、生産者に対して行う融資の原資供給や、個々の協同組織では対応できない大口資金需要に応じてきました。



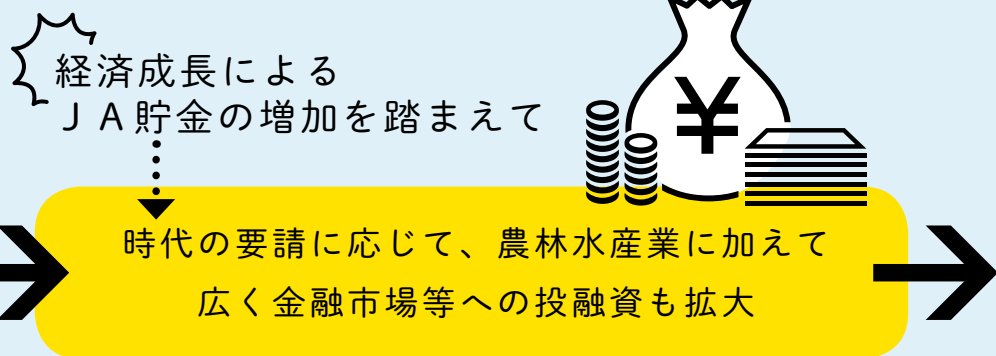
農林中央金庫は1923年の設立以来、独自の法律（当初は「産業組合中央金庫法」、その後「農林中央金庫法」）に基づいて運営されています。

「農林水産業者の協同組織のために多様な金融機能を提供することを通じて、農林水産業の発展に寄与するとともに、国民経済の発展に資する」という明確な使命を持った、協同組織の民間金融機関です。

設立以来、現在に至るまで、農林水産業を取り巻く環境変化に合わせて自らを変革していきながら、90余年にわたり、農林水産業に携わる皆さまを支え続けています。

1970 ~

2016 ~



農林水産業を取り巻く環境変化を見据えて

What's Next?



組合員や地域の利用者の皆さまからお預かりした貯金が大きく伸びてきた1970年代以降、私たちは、農林水産業に関連する企業への投融資や、国内短期資金市場への資金供給、日本国債への投資などを通じて我が国の旺盛な資金需要に 대응してきました。また、1990年代後半から、いち早くグローバルな金融市場での国際分散投資を本格化。低金利の環境のなかでも安定した収益を会員に還元してきました。

